

静岡新聞 2024年7月24日付

## 論壇

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

先日、仕事で京都に行った時、駅からタクシーで移動しようとしたら、タクシー乗り場に長蛇の列ができていた。それでも15分ほど列に付いていたが、一向に列が進む気配もなかった。諦めて公共交通機関に乗り換えたが、結果的に予定の時間に大幅に遅れてしまった。

人手不足が深刻化してタクシーが不足している影響もあるだろう。ただ、京都の場合には観光客が殺到して起きるオーバーツーリズム(観光公害)の影響の方が大きいことは間違いない。京都だけでなく、全国の重要な観光拠点でオーバーツーリズムの被害が報道されている。公共交通機関が利用しにくくなっていたり、静寂を失ったための場所が観光客の「雑踏」で雰囲気破壊されたり、という具合だ。

# 日本の観光戦略見直しの時期に

10年以上前から、インバウンドの観光客を増やすことが、日本にとっての重要な政策目標であった。人口減少で国内需要が減退する中で、海外からの需要を増やすことが必要であると考えられた。世界的な観光需要の拡大と、アジアの近隣国の所得増加は、日本にとって好都合であった。新型コロナウイルスの感染拡大によつて一時的に観光需要は消滅したが、その後の観光客の拡大には目覚ましいものがある。超円安によつて日本国内の物価が海外の人にとって割安となっていることも観光需要の後押しをしている。

ただ、過ぎたるは及ばざるが如しとも言える。過剰な観光客が一定の施設や地域に集中して観光公害を起こす現状は好ましいことではない。オーバーツーリズムへの対応が問われる時代になってきた。インバウンドの客の誘致は進めながらも、量よりも質の向上を目指す。観光客の急増が地域の住民の生活を破壊しないような配慮が求められる。全国の各地でそうした取り組みが模索され始めている。とりあえず注目されているのが、料金の改定だ。インバウンドの客を増やすために、これまでの外国人の観光客向けの料金を安めに設定してき

た。しかし、インバウンドの客が増え続けるようなら、インバウンド客だけ料金を割り引く必要があるだろうか。例えば、JRなどの鉄道料金ではインバウンドの客だけを対象とした割安なパスが利用可能となっている。できるだけインバウンドの客を引き寄せたいという当初の観光戦略ではこうした割引制度は意味があったかもしれないが、量より質のインバウンドの流れの中ではこうした優遇制度を再検討する時期に来ている。

京都市では、市バスや地下鉄で二重料金制度を導入する案が検討されているという。観光客の運賃を、市民の利用の運賃よりも高くするというのだ。姫路城や大阪城などの施設でも、外国人の入場料金を高めに設定するという案が話題になっている。

このような二重料金は海外の観光地でも導入されているところも多い。せつかくインバウンドの観光客を増やしても、施設の過剰利用や混雑が悪化するようでは困る。オーバーツーリズムを是正していくことが、持続可能な観光を実現する上で必要となる。日本の観光戦略も大きな見直しの時期に来ている。

た。しかし、インバウンドの客が増え続けるようなら、インバウンド客だけ料金を割り引く必要があるだろうか。例えば、JRなどの鉄道料金ではインバウンドの客だけを対象とした割安なパスが利用可能となっている。できるだけインバウンドの客を引き寄せたいという当初の観光戦略ではこうした割引制度は意味があったかもしれないが、量より質のインバウンドの流れの中ではこうした優遇制度を再検討する時期に来ている。

京都市では、市バスや地下鉄で二重料金制度を導入する案が検討されているという。観光客の運賃を、市民の利用の運賃よりも高くするというのだ。姫路城や大阪城などの施設でも、外国人の入場料金を高めに設定するという案が話題になっている。